

社会福祉学部 アドミッション・ポリシー

■ 社会福祉学部

社会福祉学部では社会福祉学科と心理学科の2つの学科を設置し、いずれの学科においても 1) 社会環境との相互作用も含めて深く人間を理解することができる力、2) その深い人間理解に基づいて人々のより良い生活を実現するために必要な取り組みを構想・実行することができる力の涵養を目的としています。そのために、社会福祉学と心理学の学びを基盤としつつ、教育学、社会学、法学、経済学を含めた広く人間や社会に関わる隣接領域についても学びを広げていくカリキュラムを設定しています。そのため、人間や社会に深い関心を持ち、また人々のより良い生活を実現させるために多様な視点から学びを得ることに高い志を持つ人の入学を求めています。

■ 社会福祉学科

社会福祉学科では、現代社会を生きる人々や自分が住み暮らす地域社会が抱える諸課題と向き合い、「多様性を認め合い、共に生きる社会の構築・実現」「地域社会の活性化・地域づくり」に資する人材の養成を目的としている。具体的な人材像としては、将来、社会福祉の現場で活躍できる国家資格を有するソーシャルワーク専門職（社会福祉士・精神保健福祉士・SSW）や、国・地方自治体行政や地域福祉の現場で活躍できる行政職、多様な人々のニーズへ応えるため、地域社会と協働しつつ、共生を志向するとともに、福祉マインドを持ってビジネスや行政（国・地方自治体）、NPO・NGO等の活動を展開できる人材、及び社会福祉の専門的知識・視点を持った教員などである。

したがって、本学科では、これらの人材として成長することを目指すために、①自らの人権や社会正義の感覚を育むこと、②人々の生活課題や地域課題の解決に資する社会福祉学を専門的に学ぶこと、③人々の生活課題とその背景にある社会構造的問題の解決に資する諸学問分野の知識を学ぶこと、④年齢、性別、属性、出自などにかかわらず多様なニーズを持つ人々を支援すること、またそのような人々が暮らしやすい地域づくりに熱意と関心を持つ者を求めている。

本学科に入学を希望する者は、他者や社会に関心を持つことによって自ら問いを発し、それを踏まえて自律的に学習することができる意欲とスキルが必要である。ま

た、入学者選抜においては、高等学校卒業レベルの基礎的知識とともに、他者と連携・協働するためのコミュニケーション力などを多面的・総合的に評価する。

■ 心理学科

心理学科では、本学科の教育目標を理解し学ぼうとする強い意欲があることを前提として、広く心理学に関心を持つ人、なかでも臨床心理学やカウンセリングなど心の問題の実践的分野に関心のある人、科学としての心理学を学びたい人、人との関わり方に関心のある人、心理学の視点を生活や社会のために活かしたい人を求めている。

本学科で心理学を学ぶことを志す人が身につけておくべき諸能力は、論理的な思考力と文章構成力、主題の理解力と表現力、コミュニケーション能力および広い分野の基礎学力などである。入学者の受入れにあたっては、多様な入学者選抜方法で、多元的な評価尺度を用いて、本学科の教育目標に沿った学習に必要な基礎的な能力と資質を重視して評価・判定する。